

テーマ「わかちあう 仕事も家事も子育ても」

特定非営利活動法人キッズスクエア瑞穂代表 理事長 ^{すきうら} 相浦 ^{よしこ} 良子さん

キッズスクエア瑞穂は、市内3つの中学で「乳幼児の保育体験事業」を行っています。中学生が1対1で担当した乳幼児を保育する事業です。

ママと離れて大泣きする子もありますが、中学生の皆さんは、抱っこしたりおんぶしたり、優しく声をかけたりして、一生懸命面倒をみます。この授業を始めてから9年ほどたちますが、一度も「女子なのに上手くない」という言葉を聞いたことがありません。学校というところは、ある意味男女平等が意識されている場所なのだと感じます。

しかし、一般社会に出たり結婚したりすると、男女の役割意識を否応なく突きつけられます。「誰に食べさせてもらっていると思っているんだ！」という、今や化石（！？）と思う夫の言葉に反発しつつも、実際稼いでいないから仕方がないと思っている専業主婦の女性がまだいることに驚くことがあります。365日やって当たり前で、その上誰からも評価されない子育てや家事。そこには、金銭には換えがたい価値があることが、もっともっと認識されるべきだと思います。子育ても家事も、本来人間が生きていくために必要な知恵と喜びのかたまり。自立のためには、男女の差なく誰でも、楽しんで出来る社会の仕組みと意識の変革が必要だと思います。同時に、「稼いで養わないと男じゃない！」という、男性を追い込む考え方からの脱却も重要です。

しかし、中学生の保育体験の様子を見てみると、“イクメン”という言葉がもてはやされなくなり、男性が育児や家事を“手伝う”という言い方がなくなるのも、実はそう遠くないのかもしれない。



←中学生の保育体験の様子

瑞穂市
男女共同参画



この記事についてのご意見・ご感想をお待ちしています。